

# The Western Capital of Ancient Japan

古代日本の「西の都」 ～東アジアとの交流拠点～

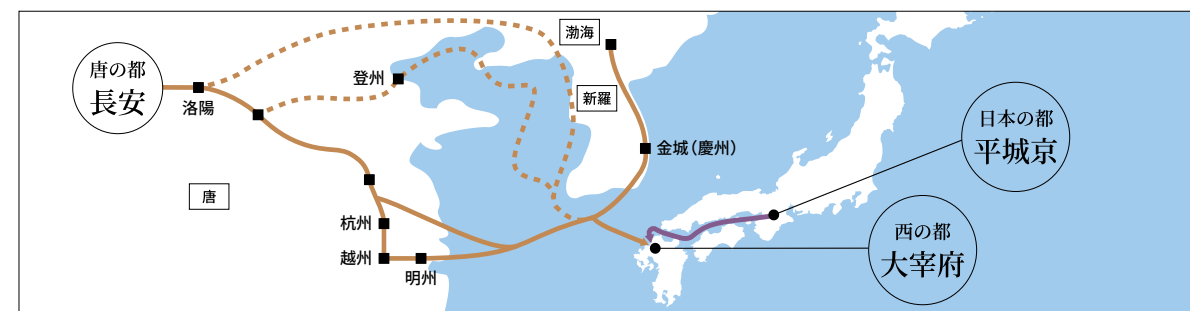
 日本遺産  
JAPAN HERITAGE



## 日本遺産とは

日本遺産は、地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形・無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。



## 「西の都」大宰府

日本の西、九州・筑紫の地にはかつて都がありました。それが大宰府です。

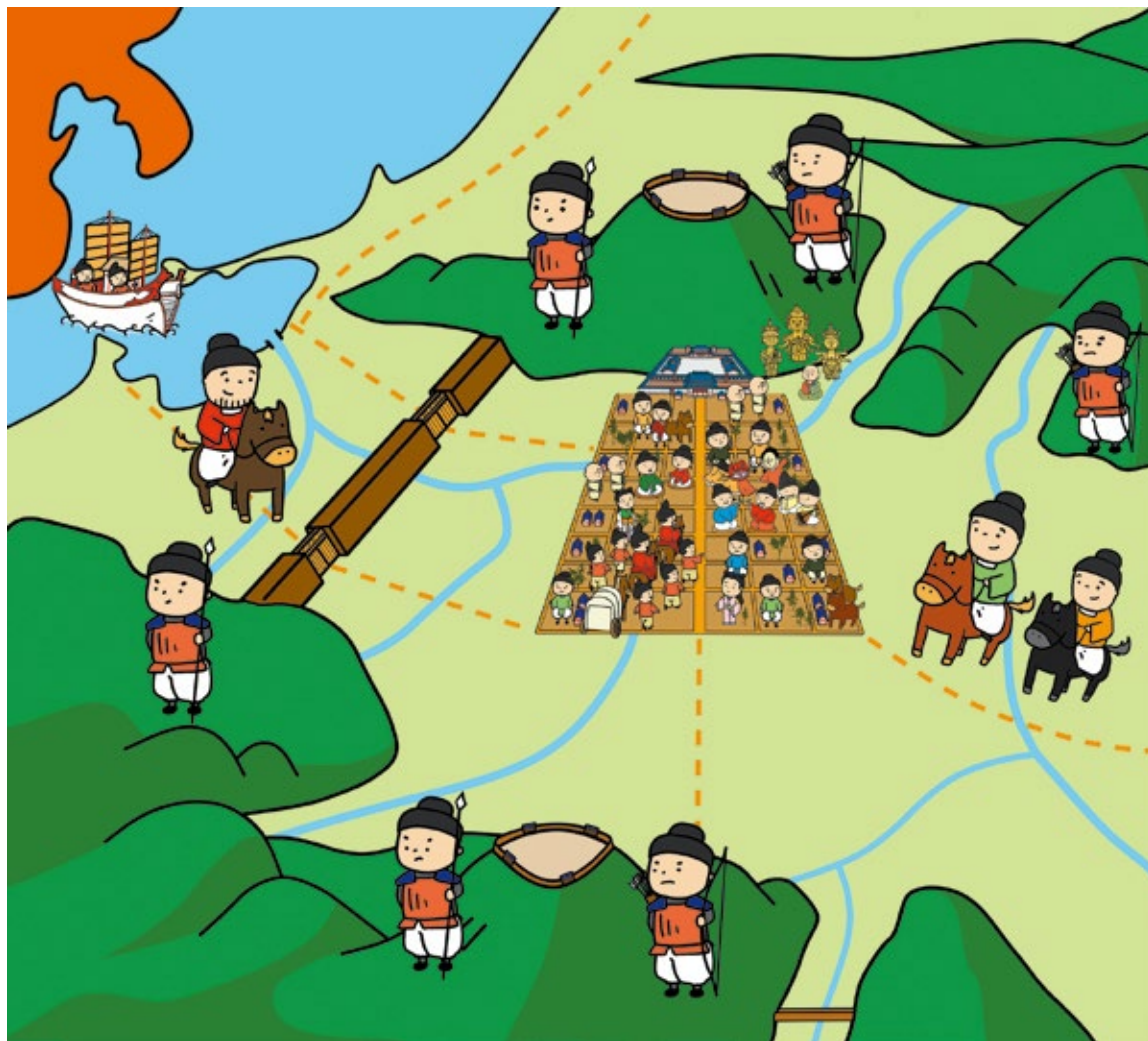
1300年前、そこには「大君の遠の朝廷」である大宰府がおかれ（『万葉集』）、「天下之一都会」と呼ばれました（『続日本紀』）。古代・中世を通して、日本の宮都や海外からもたらされる先進文化で彩られていました。

## 世界とつながる「西の都」

1300年前、中国の唐王朝が世界帝国として繁栄していました。このため唐の文物・文化・政治システムを周辺諸国は進んで取り入れ、日本も、大宝の遣唐使・粟田真人が唐から先進の情報を持ち帰り、改革を進めました。こうして日本は歴史上もっとも国際色豊かな時代といわれる奈良時代を迎えることとなります。

皇帝に厚遇された粟田真人が見た唐の都長安は、東アジアの先端となる都市でした。彼が収集した情報をもとに平城京と大宰府はつくられました。筑紫には天智朝に水城や大野城、基肄城など、すでに百済の宮都を模した要塞が築かれていましたが、唐の宮都を実際に見た粟田真人が赴任し直接造営に携わることで、「西の都」として新たに生まれ変わりました。

それは水城や大野城、基肄城など前代の要塞を利用し、その中に約2km四方にわたって碁盤目の街区（大宰府政庁や関連する役所を街区の北の中央に据え、その前面に朱雀大路を敷設しました。その幅は長安朱雀大街の1/4、平城京朱雀大路の1/2という規格をもち、国内2位の広さを誇っていました。まちには人々の住まいとともに、官人子弟の教育機関（学校院）、天皇にゆかりのある寺院（観世音寺・般若寺）、迎賓館（客館）など、宮都と同様の施設が備えられました。屋根には都と同じデザインの蓮華文の鸞が軒を連ね、粟田真人が唐で見た獅子像と同じ顔の鬼瓦が行き交う人々を見下ろしていました。四方へ広がる官道は、文物・文化の交流を支えました。



## 外国使節を迎える都

「西の都」では、外国使節を迎え国家による外交・交易が行われました。

使節（賓客）は最初に博多湾岸の筑紫館（鴻臚館）に入り、ここから大宰府に向かいました。筑紫館を発った使節は、直線的に伸びる官道を進み、天智朝に築かれた水城の西門に至り、さらに進んで推定羅城門から大宰府の街並みを眺めつつ朱雀大路を北上し、客館に入り滞りました。そして外交儀礼に際しては、威儀をととのえ、客館から朱雀大路を北上し、大宰府政庁へ向かいました。政庁では茶が流れるなか、儀礼、そしてもてなしの饗宴が行われました。滞在する使節のために日本・唐・新羅の最高級の食器が備えられ、豪華な食が振舞われました。ときには中国将来の喫茶も行われていました。



## 筑紫に花開く文化

このような「西の都」大宰府では文化的素養を持った人物が外国の賓客をもてなすためにも求められ、また、人の交流拠点でもあったため鑑真、空海、最澄などの知識人も滞在し、新しい文化が流入、集積してきました。

例えば、平安時代初期の書画詩文に秀でた小野篁は、大宰鴻臚館で唐人と漢詩を唱和し交流を深めています。また、万葉集に収められる大宰府の長官であった大伴旅人邸で行われた「梅花宴」では、唐から持ち込まれたばかりの梅の花をめでつつ和歌を披露しあうという新しい文化が生まれ、万葉歌人たちは大野城や

次田温泉（二日市温泉）をはじめ筑紫の風景に心を寄せて和歌を詠みました。その後、梅は菅原道真の伝承とともに、時代を越えて太宰府と関連深い花として親しまれています。

大宰府での道真は朱雀大路に面した南館で不自由な生活を送ったとされ、没後太宰府天満宮に祀られるようになると、南館と天満宮の間で神幸行事が行われるようになりました。現在も続く神幸行事は、大宰府条坊など古代の地割を踏襲した道を使って、平安絵巻が年に一回秋分の日展開されます。

## 先進文化の集積

観世音寺は「西の都」で繰り広げられた交流により、多くの文化・文物が集まった姿を今に伝えています。観世音寺は、天智天皇が発願し、唐で玄宗皇帝から袈裟を直接賜った玄昉が落慶法要を営んだ官寺です。5mを超える観世音菩薩像を始め、都や大陸文化の影響を受けた彫像が次々と造立されていきました。舞楽もおかれ、外国使節の饗宴では使者をもてなされ、その面が伝わっています。

また、鑑真は日本に漂着後、観世音寺に滞在し、正式

な僧になるための授戒を日本で初めて行いました。そのこともあってか、天下三戒壇のひとつとされ多くの僧を輩出しました。授戒を行う戒壇そのものが現在に伝わっています。空海など入唐僧の長期滞在もあり、唐から持ち帰った経論の写経などがなされていました。

さらに、梵鐘は日本最古のものであり、菅原道真が漢詩「不出門」で「観（世）音寺は只鐘聲を聴く」と詠んだ正にその鐘です。



このように、筑紫におかれた大宰府は朝廷が外交・交易を行うために設けた「西の都」でした。それは百済の宮都・唐の宮都にならって築かれ、東アジアの先進文化と日本の文化とが行き交う場所でした。その遺産は筑紫の地の随所にみられ、日本を代表する古都のひとつとして、人々を魅了しています。

# 「西の都」大宰府

中国・唐の都城<sup>とじょう</sup>に倣って造営された「西の都」大宰府。

8世紀に誕生し、政治・軍事・宗教・教育などに関わる様々な施設が置かれ、海外や国内各地ともつながる交流都市でした。



国特別史跡  
所在地：太宰府市

## 大宰府跡

8世紀に成立した大宰府は、九州全体を統治し、外交や対外防備などの役割を担いました。政庁跡は大宰府の中核施設があった場所で、およそ2km四方の街の北辺に位置し、平城宮<sup>へいじょうきゅう</sup>と同じく瓦葺<sup>かわらぶ</sup>きの建物が左右対称に配置されていました。外国使節を迎える儀礼も行われ、国際交流の場でもありました。





文様塼

国史跡  
所在地：太宰府市

## 大宰府学校院跡

大宰府には、「府学校」と呼ばれた役人を養成する教育機関が置かれ、西海道（九州）諸国の有力豪族の子どもが学んでいました。当時は儒学が重んじられており、12世紀初め、大宰府の長官代理であった大江山の吉備真備が唐より持ち帰った孔子の肖像画が掲げられていたと伝えています。

国重文（考古資料）  
所在地：太宰府市

## 軍団印出土地〔御笠団印・遠賀団印〕

8世紀になると当時の国ごとに軍団が置かれ、大宰府が所在した筑前国には4つの軍団が配置されました。このうち御笠団と遠賀団の銅製の軍団印が、大宰府条坊の北西部で見つかり、大宰府に軍団が駐屯していたことが分かりました。唐に倣って整備された軍事制度が、地方に浸透していたことが伺えます。

市史跡  
所在地：筑紫野市・太宰府市

## 大宰府条坊跡

古代大宰府は、条坊制と呼ばれ、東西の道（条路）と南北の道（坊路）で碁盤目状に区画された街並みが形成されていました。8世紀初頭、唐の王都である長安城をモデルとして平城京が造営されましたが、平城京造営の責任者が大宰府造営にも携わり、東アジア標準の都市・大宰府が成立しました。



所在地：筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・佐賀県基山町

## 官道

8世紀、国家によって全国の道路網（官道）が整備され、大宰府は西海道（九州）諸国とつながっていました。とくに水城の西門からは外国使節の宿泊施設である筑紫館（鴻臚館）へ、一方の東門からは平城京（のちに平安京）へとつながり、舶来の文化・文物を運び、大宰府の発展を支えました。

# 「西の都」とまもり

663年の白村江の戦いに敗れた当時の日本は、唐や新羅の進攻に備え、朝鮮半島の技術を取り入れた山城を築き、防衛体制を整えました。「西の都」は前代の山城を「守り」に活かした都市でした。



国特別史跡  
所在地：春日市・大野城市・太宰府市

## 水城跡

664年、博多湾側からの唐・新羅の進攻に備えて、朝鮮半島と同じ技術で築かれた長さ1.2kmの直線的な土塁で平野を遮断する城です。水を貯えた濠をもつ特徴から「水城」と呼ばれました。東西の門は、8世紀には大宰府の出入口となり、外国使節や都からの官人らを迎えました。



導水施設（木樋）



国特別史跡  
所在地：大野城市・太宰府市・宇美町

## 大野城跡

665年、当時友好関係にあった朝鮮半島の百済から亡命してきた貴族の指導によって築かれた日本最古の山城で、山の尾根に添って土塁をめぐらせ、谷部や城門の近くは石塁を築き城壁としました。百済の国都・扶余を守る山城に倣って築かれ、立地や築城技術に当時の交流の足跡をみることができます。



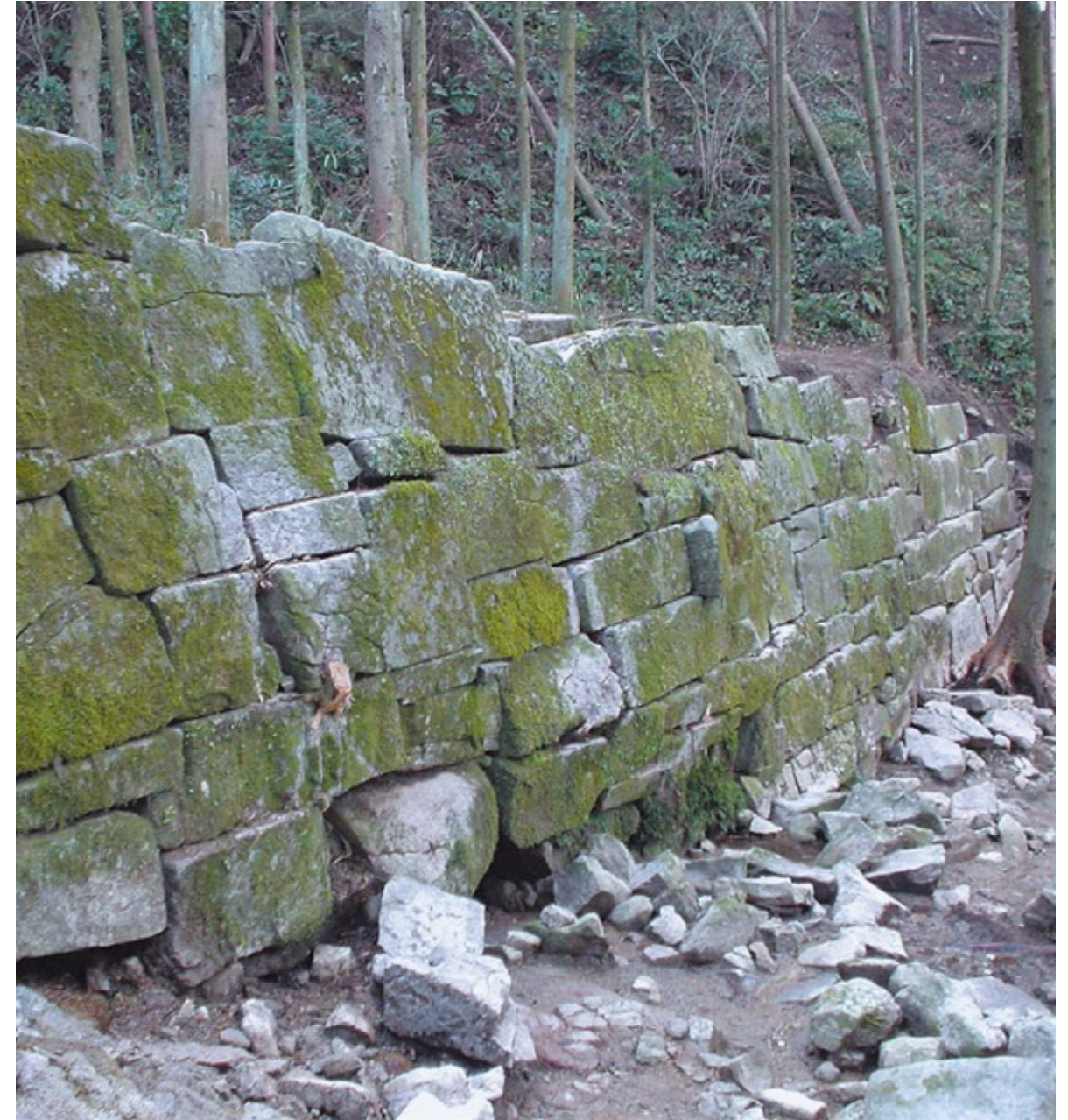




国特別史跡  
所在地：筑紫野市・佐賀県基肄山町

## 基肄城跡

665年、かつて友好関係にあった朝鮮半島の百濟から亡命してきた貴族の指導により築かれた、日本最古の山城です。8世紀に「西の都」大宰府が成立すると、南の要所としても重要性が増しました。『万葉集』には、大宰府の長官で、歌人としても著名な大伴旅人らが基肄城に登り詠んだ和歌があり、交流の場ともなっていました。



国史跡  
所在地：筑紫野市

## 阿志岐山城跡

大宰府の南東にある山城で、大野城や基肄城などと同じく古代に築かれたと考えられています。土を層状に突き固めながら積み上げた土塁や、硬い石材を巧みに加工して組み合わせた石塁など、非常に高度な造営技術を用いています。古代の先進的な技術交流の様子がうかがえます。



# 「西の都」と祈り

「西の都」の街中や郊外には多数の寺社が建てられ、周囲の峰々にも神仏が祀られました。当時の人々は、神仏に国家の守護、渡海の安全、亡き天皇の追悼など、様々な祈りを捧げました。



国史跡（観世音寺境内及び子院跡附老司瓦葺跡）  
国重文（彫刻）  
県有形（建造物・工芸）  
所在地：太宰府市

## 観世音寺・戒壇院

観世音寺は「府大寺」と称された大宰府の代表的寺院です。761年には唐から招かれた鑑真によって正式な僧侶になるための儀式を行う戒壇が設けられ、奈良県東大寺、栃木県下野薬師寺とともに「天下三戒壇」と呼ばれました。今も観世音寺に伝わる大陸由来の舞楽面や平安・鎌倉時代の諸仏は、文化の絶え間ない流入を示しています。

観世音寺



観世音寺の諸像



戒壇院



国宝（工芸品）  
所在地：太宰府市

## 梵鐘

観世音寺には、698年に製造されたと推定される京都・妙心寺の梵鐘よりも古い、国内最古の梵鐘があります。10世紀初めに大宰府に赴任した菅原道真は、漢詩「不出門」のなかで、この鐘の音について詠んでおり、今も古代と同じ鐘の音を響かせています。



落合晴彦（九州国立博物館）撮影



国史跡  
所在地：太宰府市

## 筑前国分寺跡

8世紀中頃、聖武天皇は仏教により国家を鎮め護るという鎮護国家の思想に基づき、全国に国分寺・国分尼寺を建て、七重塔に経典を納めるように命じました。全国の国分寺の頂点にあったのは、奈良の東大寺です。筑前国分寺は、大宰府が管轄した西海道（九州）の中で最初に完成したと考えられています。



国史跡  
所在地：太宰府市

## 国分瓦窯跡

8世紀以降に操業した窯跡で、斜面を掘り抜き、壁と天井を日干煉瓦でアーチ状に積み上げて作った地下式の登窯が見つかっています。当時の中国や朝鮮半島とも共通する蓮華文の軒丸瓦などが生産され、大宰府政庁や筑前国分寺などに供給されました。現在、窯跡は溜池の中にあり、見ることはできません。



市指定（史跡）  
国重文（建造物）  
所在地：太宰府市

### 般若寺跡

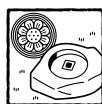
大宰府条坊のやや東寄りにある丘陵上に建てられた寺院跡で、8世紀になって別の場所から大宰府条坊内に移築したとされています。塔基壇や塔心礎が見つかり、鎌倉時代に造立された石製の七重塔も現存しています。大宰府の役所と同じ洗練された文様の瓦が葺かれていました。



市史跡  
所在地：筑紫野市

### 杉塚廃寺

杉塚廃寺は、古代都市・大宰府の南西隅にあり、その東側には博多湾岸から水城西門を経由して大宰府へ向かう官道が通っていました。この寺院は、外国使節が大宰府近郊で最初に目にした壮麗な建物で、大宰府の都市が整備されるのと同じ8世紀初め頃に建立されたようです。



国史跡  
所在地：筑紫野市

### 塔原塔跡

古代寺院の塔の中心となる塔心礎が残されています。上面には仏舎利を納めるための舍利孔が彫られています。方形で2段の舍利孔は、九州では非常に珍しい形態です。この塔跡は、出土した瓦の文様や心礎の構造などから、大宰府条坊内に移される前の「般若寺」とも考えられています。





国宝（書跡）  
国重文（建造物）  
所在地：太宰府市

## 太宰府天満宮

10世紀初め、大宰府に赴任し、太宰府の地で亡くなった貴族、菅原道真を祀る廟にはじまります。全国の天満宮の総本宮とされ、文芸に秀でた道真を崇敬して多くの貴族や武士が参詣し、今も学問の神として信仰を集めています。唐代の書籍である『翰苑』の写しなども残ります。



曲水宴



七夕宴



所在地：太宰府市

## 太宰府天満宮の伝統行事

10世紀頃から、大宰府に赴任した上級の役人によって、宮廷で行われる行事を大宰府でも開催するようになりました。4つの宴が行われたことから「しどのえん四度宴」と呼ばれ、現在は大陸に起源をもつ「まきくすいゑん曲水宴」・「たなはたゑん七夕宴」・「ざんきくゑん残菊宴」が伝わり、宴では歌や漢詩が詠まれます。


 県無民（無形）  
所在地：太宰府市

## 太宰府天満宮神幸行事

大宰府で逝去した菅原道真を弔うため、1101年に大宰府の長官代理であった大江匡房により始められました。毎年9月、道真を祀る太宰府天満宮から菅原道真の居宅があった南館跡までを、神輿を中心に、古代衣装に身を包んだ400～700人の行列が行き来する様子は、現代につづく平安絵巻です。

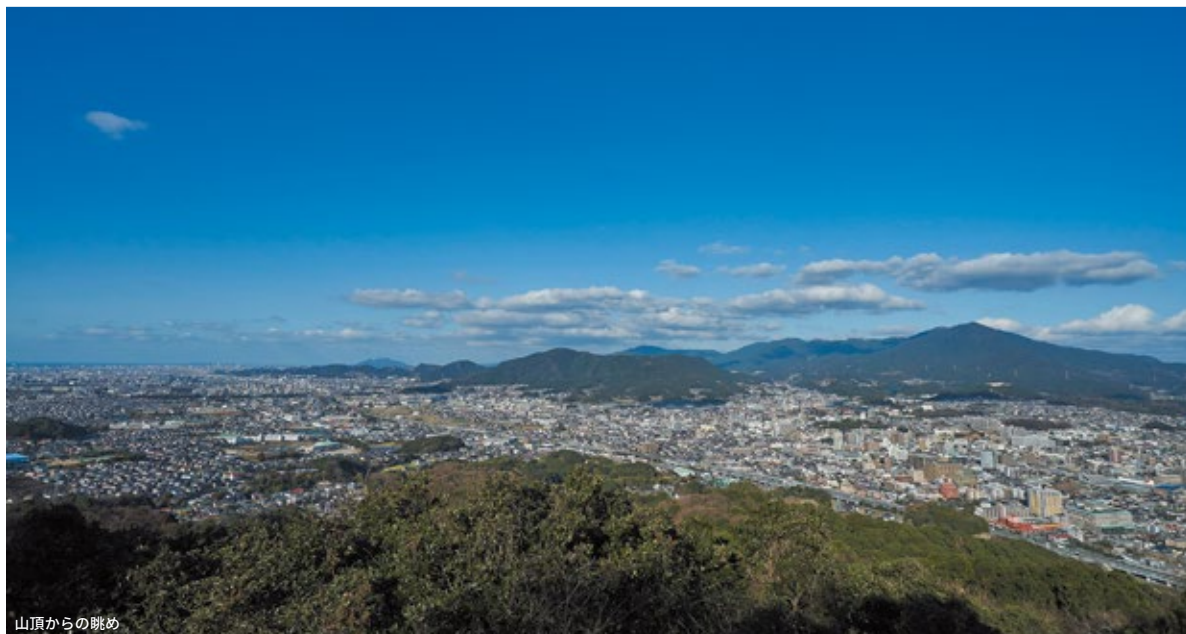


所在地：太宰府市

## 南館跡

菅原道真が、901年に大宰府に左遷されてから、903年に逝去するまで住んだ館の跡で、府の南館と呼ばれ、東側は朱雀大路に面していました。1023年に道真の霊を弔うため浄妙院が建立され、境内にあった榎の大樹から「榎寺」と呼ばれるようになり、現在の「榎社」に至ります。





山頂からの眺め



所在地：筑紫野市

## 天拝山

かつての大宰府の南にある山で、山頂からは「西の都」大宰府を一望することができます。古代の都市では、南が正面として考えられていたことから、天拝山は大宰府近郊の重要な山と考えられていたようです。この山には、901年に大宰府へ左遷された菅原道真が、無実を訴えるために天に祈ったという伝承が残されています。



国史跡  
所在地：筑紫野市・太宰府市

## 宝満山

古くは御笠山、竈門山と呼ばれ、田畑を潤す水源の農耕神として信仰され、8世紀に大宰府が成立すると、鬼門除けの役割も果たしました。また、様々な国家的な国境祭祀が行われ、遣隋使や遣唐使として大陸へ渡る人々は、渡航前にこの山に登拝し、航海の安全などを祈願しました。

## 04 「西の都」と歌

「西の都」で活躍した役人や僧。

歌人としての素養にも優れ、出逢いや別れ、望郷など、様々な心情を歌に詠みました。

「西の都」には歌の世界が広がっていました。



山村延輝 製作



所在地：大野城市・筑紫野市・  
太宰府市・宇美町・佐賀県基山町

## 万葉集筑紫歌壇

720～750年頃に大宰府に滞在し、多くの和歌を残した歌人たちは筑紫歌壇と呼ばれ、最古の和歌集『万葉集』にも登場します。なかでも大宰府の長官であった大伴旅人の邸宅で開かれた「梅花宴」は、唐から渡ってきた「梅」を愛でながら歌を読むという、大陸由来の詩歌・観梅文化を取り入れたものでした。



所在地：太宰府市

## 太宰府の梅

「梅」は唐から渡ってきた植物で、観梅もまた中国文化の一つでした。8世紀の歌集『万葉集』に載る、大宰府の長官・大伴旅人の邸宅で開かれた梅花宴は、令和の元号の由来として知られています。やがて観梅は貴族の文化から庶民の文化へと広がり、太宰府では梅を愛した菅原道真や飛梅伝説もあり、広く定着しました。



所在地：筑紫野市

## 次田温泉(二日市温泉)

『万葉集』には、8世紀前半に大宰府の長官であった大伴旅人が「次田温泉」を訪れ、妻を亡くした哀しみを「湯の原」で鳴く鶴に重ねて詠んだ歌が残ります。1180年ごろの歌謡集『梁塵秘抄』<sup>りょうじんひしょう</sup>には、大宰府高官、観世音寺僧、安楽寺僧、四王寺僧、大宰府の武士などの順で入浴するとあり、人々が集う場所でした。



市有民  
市天然  
所在地：大野城市

## 御笠の森

8世紀の歌集『万葉集』には、大宰府の高官であった大伴百代が詠んだ「念はぬを思ふといはば大野なる三笠の森の神し知らさむ」の歌が登場します。すぐ西側には、大宰府から水城東門を抜けて京へと至る官道が通り、往来する役人や商人などもこの森を眺めたのでしょうか。





## 05 「西の都」と技

山城を築き、都市や水路を整備する土木技術。

瓦や食器などを生産する窯業技術。役所や寺院などの建造物を建てる建築技術。

「西の都」は多様な「技」によって支えられていました。



国史跡  
県史跡

所在地：春日市・大野城市・太宰府市

## 牛頸須恵器窯跡

6世紀中頃から9世紀中頃にかけて操業した、西日本最大の須恵器生産地で、8世紀以降は「西の都」大宰府の食器も生産し、役人から一般庶民まで広く当時の食文化を支えました。7世紀には朝鮮半島や近畿地方にゆかりのある文様の瓦も生産され、多様な技術交流の跡をみることができます。



県有形（美工）  
所在地：大野城市

牛頸須恵器窯跡出土  
ヘラ書き須恵器

10世紀前半の法律書『延喜式』には、筑前国が治める税の品目に<sup>えんぎしき</sup>大甕・<sup>おおがめ ことがめ</sup>小甕がみられます。大宰府にも食器を供給していた牛頸須恵器窯跡では、「和銅六年」（713年）や、当時の税の一つである「調」などの文字をヘラ書きした甕が出土し、唐に倣って整えられた法制度が地方に浸透していたことがうかがえます。



所在地：那珂川市

## 裂田溝

福岡平野に流れる那珂川から取水する、総延長5.5kmの人工用水路で、720年に成立した歴史書『日本書紀』にもその名がみえます。大きく張り出す台地や岩盤を掘り抜く大規模な土木工事でした。裂田溝が潤す豊かな水田地帯は、国際交流都市・大宰府の発展を支えました。

# 「西の都」前代の交流

大陸や朝鮮半島に近い筑紫の地は、早くから先進的な知識や技術を持った人々や文化が流入し、活発な交流が行われていました。「西の都」はそうした歴史の上に成り立っていました。



県史跡  
所在地：大野城市

## 善一田古墳群

6世紀後半から7世紀後半にかけて造墓が行われた古墳群で、馬具や裝飾大刀のほか、「奈」の字をヘラ書きした須恵器や、朝鮮半島の新羅からもたらされた土器も出土しました。とくに新羅土器は、周辺の古墳群からもまとめて出土し、この地が早くから国際交流の地であったことを示しています。



新羅土器

Nº	名称	住所	アクセス
1-1	大宰府跡（政庁跡）	太宰府市観世音寺四丁目	・太宰府市コミュニティバスまほろば号・太宰府ライナーバス旅人号「大宰府政庁前」下車すぐ ・西鉄電車「都府楼前」下車 徒歩約15分
1-2	大宰府跡（客館跡）	太宰府市朱雀三丁目13	・西鉄電車「二日市」下車 徒歩約5分
2	大野城跡	糟屋郡宇美町四王寺207	・西鉄電車「太宰府駅」下車 四王寺県民の森まで登山道徒歩約80分
3-1	水城跡	太宰府市水城一丁目ほか	・西鉄電車「都府楼前」下車 徒歩約20分 ・太宰府市コミュニティバスまほろば号「特別史跡水城跡東門前」下車すぐ
3-2	水城跡（上大利小水城跡）	大野城市旭ヶ丘一丁目	・西鉄バス「小水城」下車 徒歩約2分
3-3	水城跡（大土居小水城跡）	春日市昇町八丁目12	・西鉄バス「大土居」下車 徒歩約2分 ・春日市コミュニティバスやよい「昇町7丁目」下車 徒歩約2分
3-4	水城跡（天神山小水城跡）	春日市天神山一丁目128	・西鉄バス「天神山」下車 徒歩約5分 ・春日市コミュニティバスやよい「天神山」下車 徒歩約5分
4-1	観世音寺	太宰府市観世音寺五丁目6-1	・西鉄電車「太宰府」下車 徒歩約20分 ・太宰府市コミュニティバスまほろば号「観世音寺前」下車すぐ
4-2	戒壇院	太宰府市観世音寺五丁目7-10	・西鉄電車「太宰府」下車 徒歩約20分 ・太宰府市コミュニティバスまほろば号「観世音寺前」下車 徒歩約2分
5	筑前国分寺跡	太宰府市国分四丁目	・西鉄電車「都府楼前」下車 徒歩約15分 ・太宰府市コミュニティバスまほろば号「筑前国分寺」下車すぐ
6	大宰府学校院跡	太宰府市観世音寺四丁目	・太宰府市コミュニティバスまほろば号「観世音寺前」または「大宰府政庁跡」下車 徒歩約5分
7	国分瓦窯跡	太宰府市国分四丁目17-21	・太宰府市コミュニティバスまほろば号「文化ふれあい館」下車 徒歩約2分 ・西鉄電車「都府楼前」から徒歩約17分
8	宝満山	太宰府市内山883	・太宰府市コミュニティバスまほろば号「内山（龍門神社前）」下車 山頂まで徒歩約2時間
9	梵鐘	太宰府市観世音寺五丁目6-1	・西鉄電車「太宰府」下車 徒歩約20分 ・太宰府市コミュニティバスまほろば号「観世音寺前」下車すぐ
10	太宰府天満宮	太宰府市宰府四丁目7-1	・西鉄電車、太宰府ライナーバス旅人号「太宰府」下車 徒歩約5分
11	太宰府天満宮神幸行事	太宰府市宰府四丁目7-1	・西鉄電車、太宰府ライナーバス旅人号「太宰府」下車 徒歩約5分
12	太宰府天満宮の伝統行事	太宰府市宰府四丁目7-1	・西鉄電車、太宰府ライナーバス旅人号「太宰府」下車 徒歩約5分
13	万葉集筑紫歌壇	太宰府市観世音寺四丁目6-1 大宰府展示館	・太宰府市コミュニティバスまほろば号・太宰府ライナーバス旅人号「大宰府政庁前」下車すぐ ・西鉄電車「都府楼前」下車 徒歩約15分
16-1	軍団印出土地【御笠印】	太宰府市坂本三丁目	・太宰府市コミュニティバスまほろば号「文化ふれあい館」下車 徒歩約3分 ・西鉄電車「都府楼前」下車 徒歩約15分
16-2	軍団印出土地【遠賀印】	太宰府市観世音寺三丁目13-1 太宰府市立水城小学校内	非公開
17	般若寺跡	太宰府市朱雀二丁目18	・西鉄電車「二日市」下車 徒歩約5分
18	南館跡	太宰府市朱雀六丁目18-1	・西鉄電車「二日市」下車 徒歩約10分
19	太宰府の梅	太宰府市宰府四丁目7-1 太宰府天満宮	・西鉄電車・太宰府ライナーバス旅人号「太宰府」下車 徒歩約5分
20	基肄城跡	佐賀県三養基郡基山町小倉ほか	・JR「基山」からタクシー利用で約10分
21	阿志岐山城跡	筑紫野市阿志岐	非公開
22	次田温泉（二日市温泉）	筑紫野市湯町	・西鉄バス「二日市温泉」下車すぐ ・JR「二日市」下車 徒歩約10分
23	塔原塔跡	筑紫野市塔原東三丁目14	・西鉄バス「二日市温泉」下車 徒歩約12分
24	天拝山	筑紫野市武蔵	・西鉄バス「二日市温泉」下車 登山口まで徒歩約10分、山頂まで徒歩約30分
25	杉塚廃寺	筑紫野市杉塚二丁目5-18	・西鉄バス「杉塚公民館入口」下車 徒歩約5分
26	牛頭須恵器窯跡	大野城市上大利五丁目（梅頭窯跡）	・西鉄バス「日の浦」下車 徒歩約6分
27	牛頭須恵器窯跡出土 ヘラ書き須恵器	大野城市曙町三丁目8-3 大野城心のふるさと館	・西鉄電車「春日原」下車 徒歩約10分 ・大野城市コミュニティバスまどか号「まどかびあ」下車すぐ
28	御笠の森	大野城市山田二丁目4	・大野城市コミュニティバスまどか号「御笠の森入口」下車 徒歩約3分
29	善一田古墳群	大野城市乙金東一丁目9	・西鉄バス「乙金」下車 徒歩約5分 ・大野城市コミュニティバスまどか号「乙金東一丁目第一」下車 徒歩約5分
30	裂田溝	那珂川市安徳・山田	・西鉄バス「山田」下車 裂田溝公園まで徒歩約6分

Nº	名称	住所	TEL	施設概要
A	水城館	太宰府市国分二丁目17-10	092-555-8455	水城を始め太宰府全般の史跡について美しい映像で紹介
B	太宰府展示館	太宰府市観世音寺四丁目6-1	092-922-7811	大宰府史跡の遺構を保存公開し、出土品や模型で当時の文化を紹介
C	太宰府市文化ふれあい館	太宰府市国分四丁目9-1	092-928-0800	「太宰府市の歴史や文化」をテーマに展覧会や講座を開催
D	太宰府館	太宰府市宰府三丁目2-3	092-918-8700	太宰府のイベントや観光情報を発信する太宰府観光の拠点
E	太宰府天満宮宝物殿	太宰府市宰府四丁目7-1	092-922-8225	菅原道真公にまつわる宝物等、約5万点の文化財を収蔵・展示
F	九州国立博物館	太宰府市石坂四丁目7-2	050-5542-8600	「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」をコンセプトに文化交流史を紹介
G	宇美町立歴史民俗資料館	糟屋郡宇美町宇美一丁目1-22	092-932-0011	安産祈願の伝承が多く残る宇美八幡宮境内で宇美町の歴史と文化を学ぶ
H	大野城心のふるさと館	大野城市曙町三丁目8-3	092-558-5000	「歴史」「こども」「にぎわい」をキーワードにふるさと大野城を丸ごと体感
I	春日市奴国の丘歴史資料館	春日市岡本三丁目57	092-501-1144	弥生時代の奴国を中心に、春日市の歴史や民俗を紹介
J	ミリカローデン那珂川	那珂川市仲二丁目5-1	092-954-2211	那珂川市の歴史や文化を紹介する講座や展示会を定期的に開催
K	筑紫野市歴史博物館	筑紫野市二日市南1丁目9-1	092-922-1911	交通の要衝で育まれた歴史と文化を多彩な文化財により紹介
L	基山町立図書館郷土史コーナー	佐賀県三養基郡基山町宮浦60-1	0942-92-0289	基肄城跡など、基山町の歴史と文化を紹介する展示コーナーを設置
M	九州歴史資料館	小郡市三沢5208-3	0942-75-9575	対外交流の窓口として発展した九州の歴史を多角的にとらえ伝える
N	福岡県立四王寺県民の森	糟屋郡宇美町四王寺207	092-932-7373	豊かな自然と大野城跡をはじめとする多くの文化遺産を体感
O	観世音寺宝蔵	太宰府市観世音寺五丁目6-1	092-922-1811	16体の重要文化財の仏像をはじめ、繁栄を偲ばせる多数の仏教美術品を公開

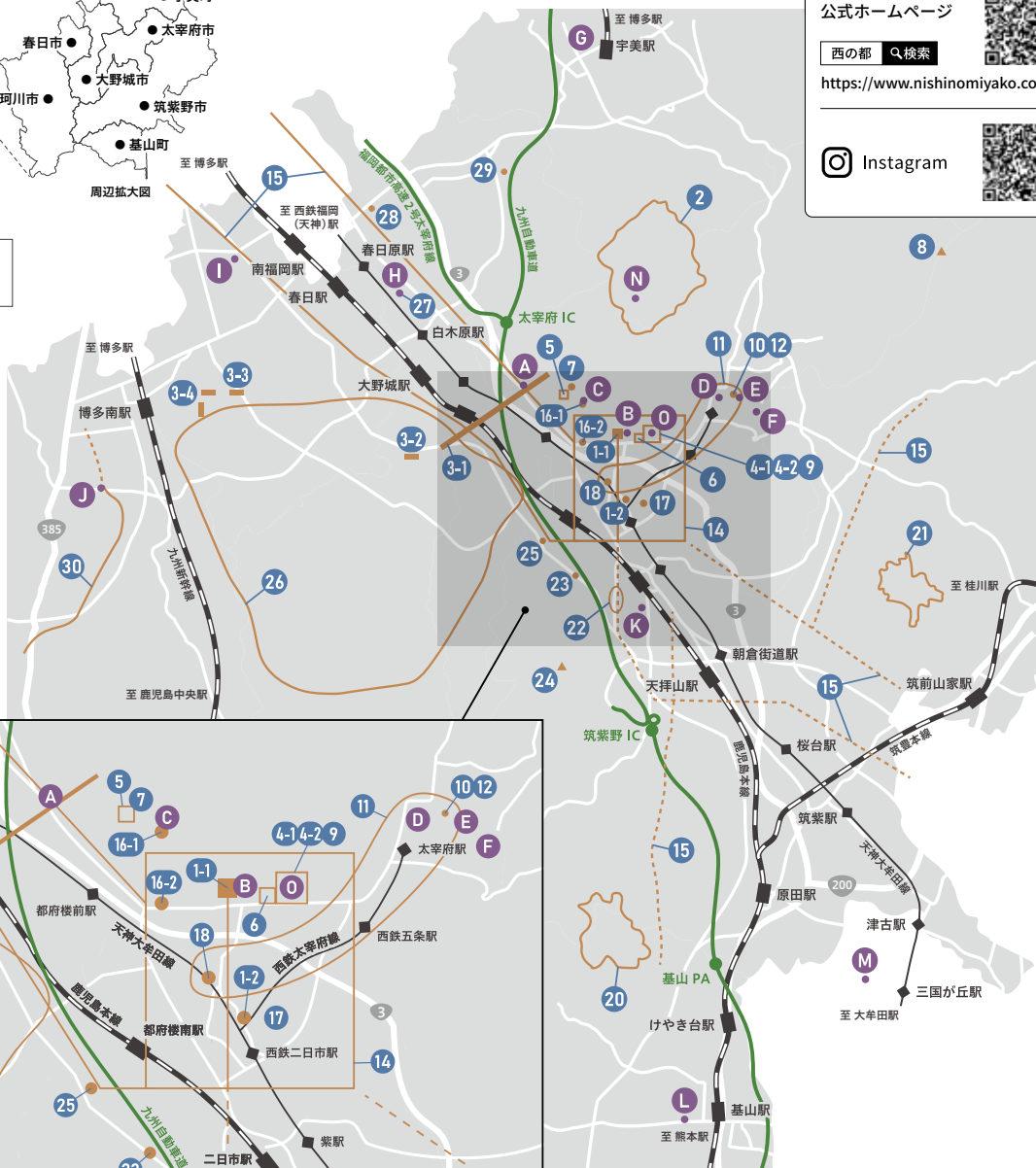
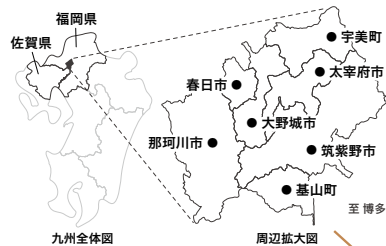
詳しくはこちら

公式ホームページ

西の都

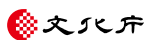
<https://www.nishinomiya.com/>

Instagram



Nº	名称	Nº	名称	Nº	名称
1-1	大宰府跡（政庁跡）	8	宝満山	21	阿志岐山城跡
1-2	大宰府跡（客館跡）	9	梵鐘	22	次田温泉（二日市温泉）
2	大野城跡	10	太宰府天満宮	23	塔原塔跡
3-1	水城跡	11	太宰府天満宮神幸行事	24	天拝山
3-2	水城跡（上大利小水城跡）	12	太宰府天満宮の伝統行事	25	杉塚廃寺
3-3	水城跡（大土居小水城跡）	13	万葉集筑紫歌壇	26	牛頭須恵器窯跡
3-4	水城跡（天神山小水城跡）	16-1	軍団印出土地〔御笠団印〕	27	牛頭須恵器窯跡出土 へら書き須恵器
4-1	観世音寺	16-2	軍団印出土地〔遠賀団印〕		
4-2	戒壇院	17	般若寺跡	28	御笠の森
5	筑前国分寺跡	18	南館跡	29	善一田古墳群
6	大宰府学校院跡	19	太宰府の梅	30	裂田溝
7	園分瓦窯跡	20	基肄城跡		

Nº	名称
A	水城館
B	太宰府展示館
C	太宰府市文化ふれあい館
D	太宰府館
E	太宰府天満宮宝物殿
F	九州国立博物館
G	宇美町立歴史民俗資料館
H	大野城心のふるさと館
I	春日市奴国の丘歴史資料館
J	ミリカローデン那珂川
K	筑紫野市歴史博物館
L	基山町立図書館郷土史コーナー
M	九州歴史資料館
N	福岡県立四王寺県民の森
O	観世音寺宝蔵



このストーリーブックは令和3年度文化財多言語解説整備事業（文化資源活用事業補助金）を活用して制作されたものです。

【問い合わせ先】

「西の都」日本遺産活性化協議会（事務局：福岡県教育庁教育総務部文化財保護課）  
〒812-8575 福岡県福岡市博多区東公園 7-7 e-mail: kbunkazai@pref.fukuoka.lg.jp